

多面的な富士山の魅力を

伝えるメディアの役割

今回は富士山の開山期に合わせ、富士山臨時支局を開設する株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社の東部総局長 嶋 晃司さんにインタビューしました。

株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社 東部総局長 嶋 晃司さん



「早速ですが、嶋東部総局長の考える、東部地区の魅力を教えてください。」

嶋東部総局長 はい。ご存じのとおり東部地区は東京に近いことから、産業が集積する要素が多くポテンシャルの高い地域です。昨年も、弊社の政策提言団体の一つである「サンフロン21懇話会」にて、「東京100km圏内の他都市との地域間競争に勝ち抜く」というテーマで、東部地区の企



富士山臨時支局員は富士山周辺の支局から3名、写真記者1名の計4名で構成される。(写真提供：静岡新聞社)

業経営者の方とさまざまな意見交換を行いました。東部地区は医療や産業振興が大変盛んな地域でもあり、今後も発展することが期待されます。

「ふじさんネットワークのことはご存知でしたか？」

嶋東部総局長 前任の東部総局長から、ふじさんネットワークの活動について聞いていました。昨年度にふじさんネットワーク幹事となりましたが、富士山に関わる団体はさまざま、多くの方が参加していることに驚

きました。諸事情で都合がつかない場合を除き総会などに参加しています。ふじさんネットワークの活動や富士山に関する情報交換の場を通じて、活動参加者の意識の高さを実感しています。また、改めて富士山の魅力を身近に感じています。

「嶋東部総局長にとって富士山とはどんな存在でしょうか。」

嶋東部総局長 私は静岡市出身で、高校の時は自転車通勤していました。静岡市の方はご存じかもしれませんが、冬の寒い朝にちょうど駿河

大橋から綺麗な富士山が目前に見えます。その時初めて「本当に富士山は美しいなあ」と感じました。この時の感動は今でも鮮明に覚えています。もちろん、東部にいれば富士山が雄大に見えるのですが、駿河大橋から見ると富士山は見映えする程良い距



嶋東部総局長が「程よい距離感で望むことができます。」という静岡市の国道一号駿河大橋からの富士山。(令和7年12月撮影)

離感といえますか。本当に印象深いです。みなさんそれぞれ富士山が見えるお気に入りのスポットがあるかもしれませんが、私の中で「ベストオブ富士山」は駿河大橋から見る富士山ですね。

また、若い頃はスキーをしていましたが、山梨県に向かう際、朝霧高原から見た富士山は畏敬とか畏怖の念を抱かせるものでした。その後富士山の取材活動でも知りましたが、富士山が信仰の対象であるということに改めて実感しました。日中と夜に見る富士山を対比すると、愛でるだけでなく多面的な魅力があるものだなと感じました。

「嶋東部総局長にとっての富士山の印象がすごく良くなりました。次に富士山臨時支局についてお話

を聞かせてください。どのような経緯で開設されたのでしょうか。

嶋 東部総局長 富士山臨時支局は2006年に開設し、登山者の話題やニュースを報道しています。当時は富士山の世界文化遺産登録を推進する活動が静岡・山梨両県の官民協働で進められており、その一助となるために始まった活動です。

毎年注目を集める富士山に常駐し、こでしか取材できない話題や美しい写真を撮影、掲載することで、これまで読者からの高い評価を得てきました。さらに、最近ではインターネットを通じて、県外の利用者からも非常に良く読まれるコンテンツになっています。近年は山梨日日新聞社と連携し、同時期に臨時支局を展開しているほか、合同で登山者アンケートを実施する取り組みも進めています。今後はそのような活動を増やし、富士山を巡る出来事や課題について、より深く掘り下げて報じていくことを検討しています。

―富士山の臨時支局員はどのよう
―に決定していますか？



富士山臨時支局開設の新聞記事(写真提供:静岡新聞社)

嶋 東部総局長 現在は東部総局、および富士山周辺の支局(御殿場、富士宮、富士)から3名、写真記者1名の計4名を選ぶケースが多いです。必ずしも東部総局の者が行くとは限らず、静岡新聞社の本社から選抜するケースもあり希望者がいる場合は考慮します。以前は政治部、どちらかというと本社の記者が行く傾向がありました。

―そうなのですね。
―富士山臨時支局を開設して
―地域の方の反応はどのよ
―うなものがありますか？
―また今後、富士山臨時支局



左・右下:原稿執筆中
(写真提供:静岡新聞社)



記者たちの
取材風景の一コマ。



お疲れさまでした!
(写真提供:静岡新聞社)



この年の臨時支局閉局前夜。ほっとした表情が印象的です。
(写真提供:静岡新聞社)

をどのような方向へ発展させていくのか教えてください。

嶋 東部総局長 新聞記事の反響、富士山臨時支局のSNSを含めて、私の肌感覚ではポジティブな印象を受けています。反応の大きさを鑑みて、引き続き富士山臨時支局を継続する方針です。静岡の人はもとより日本の皆様が「富士山が好き」ってことですね。私も東部総局の者として大変嬉しく思います。富士山自体が注目されているので、今後も工夫を凝らして新たな取り組みとして富士山臨時支局の活動を発展させていきたいと思います。

―ありがとうございます。
―最後に富士山を守り活かしていく
―ために、皆様へメッセージをお願い
―いたします!

嶋 東部総局長 そうですね。私は富士山も好きですがそれだけでなく、仏像や巡礼の旅も楽しんでます。世界遺産や文化遺産は昔から存在するもので、私はここに居てその恵みを受けている、過去から受け継がれてきたものを、今私達が預かっているのだと思っています。当たり前にあるように感じますが、実はそれとても貴重なことです。そうした気持ちを持って富士山に接して欲しいと思います。

また、富士山を未来に託す・繋げるためには、その背景を知ることが大切だと考えています。富士山に対する信仰の心や、人に恵みを与えて

くれる自然環境も含めてです。富士山について学び、保全活動に参加するなど、たとえ小さなことでもみんなで積み重ねていくことが、富士山を守り未来につなげていくことになるかと思っています。

―本日は貴重なお話をありがとうございました。
―ありがとうございました。

嶋 東部総局長 こちらこそ、ありがとうございました。

嶋 晃司

株式会社静岡新聞社・静岡放送株式会社 東部総局長
1968年生まれ。静岡市駿河区出身。1992年静岡新聞社・静岡放送に入社。入社後は情報システム局で主に県内自治体の基幹システムや病院の電子カルテシステム業務を担当。1999年に静岡新聞社・静岡放送情報システム局が分社化され株式会社SBS情報システムになり、在籍する静岡放送へ戻る。静岡新聞社・静岡放送東部総局業務部長を歴任し2024年4月から現職。

